

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 24 日現在

機関番号：13801

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2014

課題番号：23653122

研究課題名(和文) 在日ブラジル人児童生徒の保護者を中心にした成人学習：当事者の自己啓発を目指して

研究課題名(英文) Adult learning centered on Brazilian parents's experiences: Pursuing personal development

研究代表者

ヤマモト・ルシア エミコ (Yamamoto, Lucia Emiko)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：20451495

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：在日外国人児童生徒の教育に関して、近年大きく取り上げられているのが、日本語能力の不足と、それに伴う学校不適合や学力低下の問題である。すでにこの問題が深刻化している米国では、不適合等の問題を当該児童生徒だけに帰せず、彼らに最も身近な存在である保護者の観点に立った研究が進んでいる。保護者らは経済的格差だけではなく、派遣労働や期間工労働といった不安定な労働環境に晒されている。そうした状況が児童生徒らの教育を大きく左右することは紛れのない事実である。本研究はブラジル人保護者を対象にし、当事者である彼らは自らの社会的地位をどのように把握して、それとどう向き合っているのかを成人教育を通して検証した。

研究成果の概要(英文)：Research on the Brazilian children education conducted before financial crisis focus on the children's adaptation to school and their academic achievements. According to these studies, family's geographic mobility affects the children's school performance negatively. After the crisis, academics shift their focus to 'non-attending school' and 'junior high school children leaving school' issues. Going beyond simplistic understanding of the educational issues we need also emphasis on parent's role as one of the key players in the children education issues. In this research, we focus on parents' empowerment through adult learning and changing consciousness about their children education.

研究分野：社会心理学

キーワード：自己啓発 在日ブラジル人保護者 成人学習 トランスナショナル空間

1. 研究開始当初の背景

(1) 在日外国人児童生徒の教育に関して、近年大きく取り上げられているのが日本語能力の不足とそれに伴う学校不適応や学力低下の問題である。これらの問題が深刻化している米国では、不適応等の問題を当該児童生徒だけに帰せず、彼らに最も身近な存在である保護者の観点に立った研究が進んでいる。実際、保護者らに対して学校教育への積極的な参加を促した結果、児童生徒の学力が向上し不登校および落第等が激減したという結果も挙げられている。

(2) しかし、保護者らの学校参加を促進することは容易ではない。特に、Valdes(1996)が述べるように、社会の下位階層に位置付けられている保護者らは、学校教育へ参加をしたくても叶わず、学校からの期待に応えようとしても応えられない状況に追い込まれる傾向にある。さらに、移住者の場合、そうした社会階層の格差だけではなく、派遣労働や期間工労働といった不安定な労働環境に晒されることに加え、トランスナショナルな環境にも位置付けられている。そのため、結果的に移住者の児童生徒らは学校を転々とし、学びが断片化してしまう。現在の在日ラテンアメリカ人の児童らを見ていくと、まさに上述した背景が際立ち、中学校を中退するあるいは高校に進学できない、さらに不就学に陥ってしまう事例が少なくない。以上のように、児童生徒の不登校等の問題を語る上で保護者らがおかれている社会的・経済的状況を無視することは決してできない。そうした状況が児童生徒らの教育を大きく左右することは紛れのない事実である。

2. 研究の目的

(1) 本研究では、困難な状況に立たされているブラジル人保護者らを対象にして、研究と実践を併用し、厳しい経済・社会的現状から脱却(困難な状況からの脱却)が可能かを検証した。本研究は上述した状況におかれている当事者らが、自らの社会的地位をどのように把握し、それとどう向き合っているのか。成人教育の研究実践を通して彼らが持つ社会的意識を検証した。本研究企画で行う成人教育の実践(以下成人学習と称する)を逐一分析し、研究参加者にフィードバックした。

(2) 本研究で定義する成人学習とは、個人と社会の関係性を当事者が批判的な振り返りを通じ、習慣化された行為、思考等の枠(準拠枠)を変えていく学習である(常盤・布施, 2004)。



図1. 意識変革を促す成人学習

3. 研究の方法

(1) 近年の移民教育研究は研究対象を子どもに限定する傾向がある。本研究はそれと異なって、外国人保護者らを対象とした成人教育を研究課題とした。本研究で考える成人教育とは教育学者 Freire, P. (1970) が示す成人識字教育を包含する社会的意識の変化をもたらす教育である。本研究は成人教育の実践を通して保護者らの教育への関心向上及び保護者らの地域社会への参加を目指した。

(2) 長期にわたり成人学習研究に携わってきた Mezirow, J. (1990) は、成人の認識の質的な変化をもたらす学習は、既存の準拠枠を変容する学習であるとする。本研究企画では、Mezirow が示す準拠枠の変容的学習をブラジル人保護者の自己啓発及び自尊心向上につながる成人学習とした。この学習の実施にあたり、本研究は成人教育学のアプローチに基づいた以下の成人学習を実施した。

(3) 成人学習では、日本語学習支援、自己啓発をもたらす学習及び自尊感情を高めるグループディスカッションを企画した。この活動ではNPO在日ブラジル人を支援する会SABJAの心理カウンセラーらと協働で保護者らに実施した。他の活動としてグループディスカッションも行った。この活動では企画者となる地域コーディネーター及び教育支援者らが幾つかの課題をブラジル人保護者らに提供し、話し合いの上、ディスカッションの課題とした。全員の参加を円滑に行うために、ロールプレイ等も取り入れた。勉強会、公演会は、保護者らが求める情報、例えば本国の経済事情、帰国子女の教育状況等の勉強会をNPO国際交流センター及び在掛川ブラジル人学校と合同で行った。成人学習の成果を分析するために、これらの学習活動を記録した。収集したデータの分析結果は活動の改善と研究に用いた。

(4) また本成人学習で提供する情報は、在日ブラジル人が生活設計時の判断材料として利用できる情報である。保護者らが求める情報を彼らが生活する「空間」で提供した。本研究でいう「空間」とは、外国人保護者らが集う教会、外国人学校、NPO団体等である。この活動を、上述した2つのNPO団体、在掛川ブラジル人コミュニティと共催で行った。本企画の広報活動のためのHPも開設し、2014年まで公開した。その他、本研究は他国で異文化理解及び多様性との共存を目指す活動を実施する団体と意見交換を行う目的で、実績のある Institute of Community Cohesion (Coventry, UK) の研究者らと日本でワークショップを開催した。

4. 研究成果

(1) 本研究の調査地にあたる静岡県掛川市では平成24年度から自己啓発を目指す活動

(講演会、ワークショップ、グループディスカッション、情報提供等)を行ってきた。しかし活動参加者らはこれらの活動は抽象的で彼らが抱える諸問題の即解決につながらないと批判し、実践に疑問を投げかけた。その後、「自己啓発」の具現化を意識し、一つの具体的な課題に特化した活動(移民家族が抱える教育問題)を設定した。換言すれば「自己啓発と言わない自己啓発」活動を行いながら外国人保護者らの社会的意識の変化過程を検証した。

(2)これらの活動を通して明確になった問題は、不安定な経済状況におかれている移民家族は子どもの教育計画を立てられないでいる、教育熱心な保護者らは日本での子どもの進路、進学についての情報を十分に入手できておらず、不安を抱える、その一方、本国の大学に入学した子ども、あるいは日本の大学に入学した子どもらが少なからずいる。

(3)似たような社会的・経済的状況におかれている移民家族間でなぜこのような相違が発生するのか、疑問が残る。本研究では、この課題を検証するために移民らが活用する社会的資源に焦点をあて、移民家族の教育戦略を検証した。

(4)また成人学習では、当事者らがジレンマに直面した時にこれまでの価値観が揺さぶられ、安定性に対して疑問を持つようになる。このジレンマによって価値観が問い直され、意識変革が生じる。本研究が対象にした在日ブラジル人保護者らは、諸活動で取り上げた課題(子供の進路、家族の生活戦略、帰国・定住問題等)は一時滞在者である彼ら特有の問題であると認識される。家族がジレンマに陥った場合、その原因は家族戦略の失敗によるものであり、彼らの置かれている社会的・経済的状況と無縁だと解釈される。家族の生活戦略は既存の価値観に固執して(例えば中間の意識と価値観)意識変革が見られない。彼らはジレンマに陥った時の解決策をホスト社会にだけでなく、本国にも求める。両国に跨る生活を送る多くの在日ブラジル人家族への適切な学習内容は、越境する人々の課題を取り入れた学習内容だと考えられる。本研究で得た知見を基に、今後の課題としては学習内容の再検討を行う。

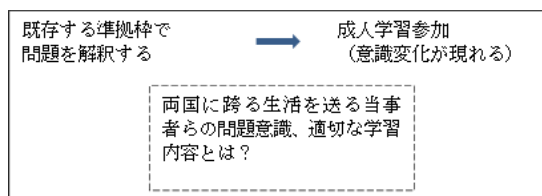


図2. トランスナショナルな空間を生きる当事者の成人学習内容

<引用文献>

- (1) Freire, P.、Paz e Terra、Pedagogia do Oprimido、1970
- (2) Mezirow, J., et al、Jossey-Bass、Fostering Critical Reflection in Adulthood: A Guide to Transformative and Emancipatory Learning、1990
- (3) 常葉・布施 美穂、世界思想社、変容的学習 J・メジローの理論をめぐって、赤尾 勝己(編) 生涯学習理論を学ぶ人のために 欧米の成人教育理論、2004、pp. 87-114
- (4) Valdes, G.、Teachers College Press、Con Respeto, Bridging the Distance between Culturally Diverse Families and Schools、1996

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 0件)

[学会発表](計 3件)

- (1) Yamamoto, Lucia Emiko, Empowering local community through diversity, Education for Sustainable Development Forum “Promoting Sustainable Development through University and School Education: Good Practices”, March 5-7, 2015 Yogyakarta, Indonesia
- (2) 松永泰弘(発表者); 土肥阿利佳; ヤマモト・ルシア・エミコ, 異文化理解を促進するものづくり授業とその可能性, International Conference on Teacher Education: Professional Education for Teachers in Asia-Pacific Region Indonesia University of Education and Shizuoka University, December 23-24, 2013, Bandung, Indonesia
- (3) Yamamoto, Lucia Emiko, Migrant Children Educated in a Transnational Context: Strategies and Dilemmas, British Association for International Comparative Education Conference Education, Mobility and Migration: People, Ideas and Resources, September 8-10, 2012 Cambridge, UK

[図書](計 0件)

[産業財産権] 出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
(RAIZES 2014 年 8 月まで公開)  
<http://www.raizesjp.com/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

ヤマモト・ルシア・エミコ (YAMAMOTO,  
Lucia Emiko)

静岡大学・教育学部・准教授

研究者番号：20451495

##### (2) 研究分担者

宇都宮 裕章 (UTSUNOMIYA, Hiroaki)

静岡大学・教育学部・教授

研究者番号：30276191